

地域の教育力を活かした主体性を育む教育活動の実践  
～総合学科における開かれた教育課程～

北海道標茶高等学校

I 実践テーマの趣旨

本校は日本一の面積を誇る敷地内に、山林や実習湿原等の自然豊かな学習フィールドや、全国唯一のロボット搾乳機が設置された牛舎と広大な牧草地を有し、多種多様な教育活動を展開している。全校生徒 205 名が在籍しており、校区に寮があることから釧路管内をはじめ近隣市町村や他府県からも生徒が入学している。

【本校の総合学科の理念】

ふるさとの風土や「いのち」をめぐる体験に学び、たくましく豊かに生きぬく力を身に付け、人や地域をつなぎ共に支え合い、社会の発展に資する人間を育てるため、幅広い選択科目等を設定し多様な自己実現を支える社会に開かれた教育課程を編成する。また、「文化理解」、「地域環境」、「酪農・食品」3つの系列に関する体験的な活動を重視することで、知識の理解の質を高め、社会において活きる学力の習得をねらいとした教育活動を推進する。

【本校の育成を目指す資質・能力】

1 探究

主体的で協働的な探究により、質の高い学力を身に付け、地域社会の発展に資する生徒を育てる。

(1) 学びに向かう力

学びの価値を認識し、計画的で質の高い学びをデザインするとともに、学びの発展を持続することができる資質と能力。

(2) 課題を解決する力

身近な課題を設定し、情報収集と分析、他者の価値観を共有し、自らも明確に発信することにより、自主的、創造的にその課題解決、あるいは軽減に向けて、取り進めることができる資質と能力。

2 飛躍

新たな時代において、不撓不屈の精神を以て自己実現を目指すことのできる生徒を育てる。

(1) 新たな時代を切り拓く力

他者と協働しながら、主体的に物事に取り組むとともに、肯定思考と忍耐を持ち、自己実現を目指すことができる資質と能力。

(2) 自己の進路を設計する力

心身ともに持続できる職業観を育み、自己理解を深め、自らの進路を考えるとともに、主体的・継続的にキャリアを形成することができる資質と能力。

3 共生

「人」、「自然」、「食」等に関する実学を通して生命を尊び、多様性を認め合い、豊かな人間性を持った生徒を育てる。

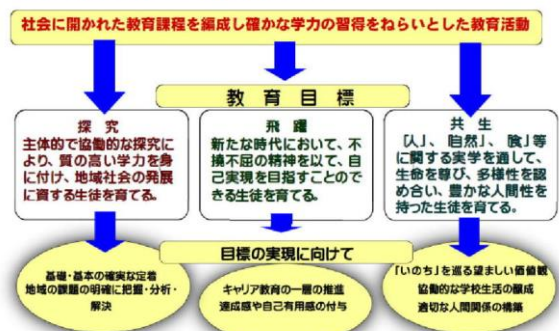
(1) ふるさとを愛する力

生活の基盤とする釧路圏域との触れ合いや他の地域文化を知ること、地域を一層理解し、ふるさとへの愛着と関わりを強く持つとともに、ふるさとの良さを広く情報発信することができる資質と能力。

(2) 自他を愛する力

生命を巡る望ましい道徳観と価値観を身に付けるとともに、自他を尊びともに支え合うことができる人との関係を構築した生き方ができる資質と能力。

【北海道標茶高等学校の教育の深化】



## II 実践事業一覧（令和元年度～）

本校では「文化理解」「地域環境」「酪農・食品」の3つの系列それぞれで、地域と連携しながら特色ある事業や探究ゼミ活動を教育課程に位置付け、生徒が主体的に外部と関わり、アウトプットしながら取り組むことで、目指す資質・能力の育成の具現化を図っている。

|        |  |
|--------|--|
| 共通     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊研修受入での生徒による授業・高校生による中学生への高校説明会・町内小学校夏休み学習支援活動・カタリバ</li> <li>・釧路管内社会教育委員研修大会発表・標茶町総合計画策定に係るまちづくりセミナー・標茶高校フェアでの発表と販売</li> <li>・総合学科生徒研究発表会(限研吾賞合)・課題研究集録作成・インターンシップ報告書、ポスター作製 等</li> </ul>   |
| 文化理解系列 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人形劇イコロ鑑賞・ムックリづくり体験・東北復興支援ボランティア・外国クルーズ船受入れボランティア・アミティフェスタ</li> <li>・高文連英語プレゼンテーションコンテスト・特別支援学校との交流学習会・ユースキャンプ&amp;エクスチェンジ</li> <li>・特別養護老人ホーム夏祭りボランティア・福祉運動会ボランティア・高校生ビジネスコンペティション・地域取材と広報全町発行</li> <li>・塘路駅でのくしろ湿原ノロッコ号乗客への観光PR・Doはぐマスター講習会参加・全商全道英語スピーチコンテスト</li> <li>・SL冬の湿原号乗客への標茶町PR活動・釧路総合振興局職員とのまちづくりに関するワークショップ・世界一大きな授業</li> <li>・JICA国際協力中高生エッセイコンテスト・町活性化各種イベントの企画、協力(ブラックアウトの夜、ありがとうフェア) 等</li> </ul>  |
| 地域環境系列 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・標茶町との地域振興に係る協議・標茶町の歴史についての講演・釧路湿原クリーンデー・豊かな緑と魚のリバーサイド植樹活動</li> <li>・標茶駅でのくしろ湿原ノロッコ号おもてなし、自然ガイド・大地みらい信用金庫標茶支店周年イベントでの地域振興に係る発表</li> <li>・身近な水環境の全国一斉調査・道道釧路空港線花壇植栽事業・リーダーシップ勉強会・自然体験教育プログラムデザイン講習</li> <li>・グローイングアップ、ワイルドエデュケーター養成講習・釧路湿原こどもレンジャーガイド・京都大学研究林での調査体験会</li> <li>・全国高校生自然環境サミット・小学生環境学習会の企画、運営・全国いい川づくりワークショップ・ナラの木植樹活動</li> <li>・全国ユース環境活動発表大会・タンチョウガイド野外実習・SL冬の湿原号での発表・観光客へのタンチョウガイド、標茶町PR</li> <li>・達古武調査体験会・全国ユース環境活動発表全国大会・小学生の体験活動推進事業年間スタッフ・地域住民への車馬山ガイド</li> <li>・エゾシカクラフト事業、企画運営・作物を用いた食育事業・ココ・コーラ環境教育活動表彰・グッドライフアワード</li> <li>・全国学芸サイエンスコンクール・日本水大賞・イオンエコワングランプリ・地域活性化策田舎力甲子園 等</li> </ul> |
| 酪農食品系列 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・標茶町フェア・標茶町うまいもん発見市場・標茶町産業祭B&amp;Wショー・標茶町秋祭り・狩猟免許取得(わな猟)</li> <li>・学校祭販売会・釧路地場工業展示会メイドインくしろ・東北道意見発表大会・農場 HACCP 認証</li> <li>・社会共創コンテスト・くしろ湿原ノロッコ号イベントでのしべパフェPR活動・全道技術競技大会</li> <li>・高校生チャレンジグルメコンテスト・高校生ビジネスコンペティション・食品養成講習・仮想道の駅フェスティバル</li> <li>・エゾシカの飼養と行動に関する出前授業・さんフェア食彩フェア・くしろジビエの祭典鹿肉PR・中標津えぞ鹿フェスティバル</li> <li>・釧路管内農業青年実績発表大会・東北道実績発表大会・総合学科研究発表会での販売会・全道農業高校実績発表大会</li> <li>・くしろ水産食品まつり・マイプロジェクトアワード北海道 summit・食の6次産業化プロデューサーレベル2 等</li> </ul>  |

## III 実践の一部概要

### 1 系列による特色ある教育内容

#### (1) 「しべパフェ」の取組(酪農・食品系列)

平成31年度より高校生OPENプロジェクトの指定を受け、地域の活性化に向けて「しべパフェ」を核にした町おこしについて企画及び調査・研究を行った。1年目は企業と連携して「しべパフェ」のデザインの作成、2年目に町と連携し「しべパフェ」の販売を中心としたPR、3年目となる今年度は「しべパフェ」の取組の中心を高校から町へ引き継いでいく。



「しべパフェ」の取組(酪農・食品系列)

#### (2) 農場 HACCP の取得(酪農・食品系列)

平成31年1月より、標茶町、JA標茶、農業改良普及センター、北海道ひがし農業共済組合の協力を得て「標茶高校農場 HACCP 準備会」を立ち上げ、毎月準備会を重ね、令和元年11月に中央畜産会へ申請を行った。申請後、現地審査会を経て令和2年2月に全国で初となる高等学校の農場 HACCP 認証農場(乳牛)の認証を受けた。今後、GAP への取組の学習へ深化させたい。



農場 HACCP の取得(酪農・食品系列)

(3) エゾ鹿の捕獲と有効利用 (酪農・食品系列)

令和元年度、生徒自らが狩猟免許を取得し、校地内での「くくり罠」によるエゾ鹿の捕獲を行い、肉の加工、革製品の加工を行い、地域のイベントやノロッコ号でのおもてなし等で広く販売を行った。特に革製品のレザーストラップが観光客に大人気となり生徒の製造が間に合わないほどであった。捕獲から加工までの一連の学習により命の尊さを理解した上で、製品の販売に取り組んでいる。



エゾ鹿の捕獲と有効利用(酪農・食品系列)

(4) 湿原環境及びドローンの活用 (地域環境系列)

校地内にあるミニ湿原のビオトープや水源地等をフィールドとし、地域住民を対象に、学校の歴史と結び付けたガイド活動を行い、地域教育と環境教育を行っている。また、ノロッコ号運行時に車内において、生徒が観光客の方々に湿原の歴史等についてのガイドを行っている。今年度、その活動がYouTubeで紹介され、JR 東日本の中吊り広告に写真が掲載されるなど幅広く取り上げていただいた。



湿原環境及びドローンの活用(地域環境系列)

(5) タンチョウガイド (地域環境系列)

鶴居村にある伊藤サンクチュアリと連携して観光で訪れた方にタンチョウヅルの生態や行動についての説明を行っている。年2回の実施であるが、このガイド学習に向けて現地のレンジャーの方からご指導いただき準備を進め、多くの人に説明を聞いていただいている。海外からの観光客も図や模型等に感動している様子も見られるなど、毎年、人気を集めている取組である。



タンチョウガイド(地域環境系列)

(6) 標茶町の観光資源の発掘と文化理解(文化理解系列)

「標茶音頭」等、町の伝統や文化を体験・学習し、その中から新たな観光資源の発掘を行い、地域の活性化を図る。また、SDG s も学習に取り入れ、新たな取組を行っている。特に、町民の方々と積極的に交流を図りイベントの企画・運営にも参加してきた。更に、標茶町第5期総合計画に本校の取組が評価され、今後、計画策定に協力することになっている。



標茶町の観光資源の発掘と文化理解  
(文化理解系列)

(7) 標茶高校フェアの開催(共通)



標茶高校フェアの開催(共通)

日専連釧路の協力をいただき、釧路市において初めて「標茶高校フェア」を開催した。生徒の学習成果を公開する場として貴重なイベントであった。特に研究班活動の説明(3系列では、ブースを設置し来場者の方々に説明を行った。また、実習成果品である加工品の販売(肉加工品5品目、乳製品4品目やしべパフェ)、カボチャやジャガイモなどの野菜を販売した。今年度初めて標茶高校の独自のイベントとして実施し、町外にも広く本校の教育活動を知っていただく機会となった。

標茶町の観光資源の発掘と文化理解  
(文化理解系列)

## 2 課題研究ゼミを活かした各種コンテストなどへの応募

### (1) No Maps2020 釧路・根室「高校生ビジネスコンペティション」応募

釧路・根室管内の高等学校より 25 口の応募があり、本校から応募した 2 口はすべて入賞し、最優秀賞(「標茶の資源を活用した体験活動」とビジネスアイデア賞(「しべ高で町の活性化」)を受賞した。どちらも審査員の方々から高い評価をいただいた。

札幌以外では、釧路・根室管内にしかない取組であるが、昨年度から始まったこのコンペティションを教育活動で生かしながら本事業を盛り上げたい。

### (2) 第 9 回イオンエコワングランプリ応募

「学ぼう自然、守ろう環境～私たちが発信する「自然再生意義」という活動テーマで応募し、「標茶高校自然満喫ツアー」や SL 冬の湿原号、くしろ湿原ノロッコ号等でガイドを行ってきた。1 次審査、2 次審査を通過し、最終審査会(グランプリ大会)の 10 校に選出された。

### (3) 福知山公立大学 2020 地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」応募

「標茶町の魅力を高校生視点で！～町をどんどん活性化・発信！標茶町～」という活動テーマで応募し、標茶町の魅力の発見とその伝え方を研究するとともに、ふるさと納税の仕組みや町の状況を調査した。全国 142 口の応募があり、奨励賞に入賞した。

## IV 成果と課題

### 1 成果

- (1) 系列特有の学習による専門性の深化とアクティブ・ラーニングを積極的に実践することにより、生徒自らが意欲と関心をもって積極的に学習に取り組むことができている。また、学習したことをアウトプットすることで学習の幅を広げ学習意欲の喚起につながっている。
- (2) 3 系列(文化理解、地域環境、酪農・食品)で積極的に調査・研究を行っており、教科科目・プロジェクト研究・行事が三位一体となり、キャリア教育を特に重視する科目(産業社会と人間、地域探究、課題研究)との連携を図る中で、進路を実現する生徒も増えている。
- (3) 学校の教育活動(授業や研究活動)に地域の方々から多くの支援をいただき、幅広い教育活動が行われているとともに、学習成果により地域のニーズに応えることで良い関係を築いている。
- (4) 育てたい生徒像を明確にした上で、それを共有し、総合学科の特徴や利点を活かして、教科横断的な学習や教育活動を行うことができている。

### 2 課題

- (1) 管内の中学生の減少に伴う本校入学者数の減少や、生徒の多様性に対応する必要がある。
- (2) 研究活動や事業が活発になることによって週休日のイベントや研究班活動が行われたり、様々な学習準備、評価等が必要になったりして、教職員の負担が増加している。
- (3) 外部も含めた人材と予算の確保する必要がある。
- (4) 環境条件に合わせた効果的な教育課程の改善と運用の工夫を図る必要がある。

結びに、入学する生徒は多様化してきているが、本校では各自の興味・関心に応じた体験から学び、生徒が主体的に学習を深化させており、総合学科の理念が具現化されている。

また、標茶町では標茶高校を「我が町の学校」として誇りを持っている町民が多く、地域と連携した実学教育を行う素地が整っている。それが、現在の本校の支援にも結び付いている。つまり、地域の教育力を最大限活用し、実践的な生きた教育ができる実学教育が本校にはある。

更に、3年間を通して「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」で生徒の学びのツール(意欲、協働性、思考力、表現力等)を整え、目標を明確にした上で教科の枠を越え、系列として教育活動をまとめることで、教育活動の定向化を図ることができており、更にはそれを地域社会とも共有することで、開かれた教育課程が実現できている。

今後も、本校の伝統を大切に課題解決に努め、生徒自身の幸福と地域の発展に寄与する人材の育成のために教育活動に取り組んでいきたい。

その他、本校教育実践のグランドデザイン、系列の教育計画等は、本校 HP もご覧ください。

(URL : <http://www.shibeche-h.ed.jp/index.html>)